

のうきょう ちがいで



'93

11

No. 227

のうきよう ちびっつ

カブよいハーベスターの
音響とともにつぎつぎと
刈り取られるデントコーン。



もくじ

- 3 ——— 〈シリーズ〉
未来を担う若者
佐藤久見さん(33歳)
- 4 ——— 「今こそ協同の力を」
農協法公布記念日にあたり
- 5 ——— 組合長日誌
- 6~7 — 〈営農技術〉
営農計画の作成に向けて
- 8 ——— 〈わが家の人気者〉
パパのアイス大好き
片岡 ^{ジョウ}丞くん(2歳)・舞ちゃん(1歳)
- 9 ——— 伯爵&缶バター開陽台キャンペーン
- 10~12 — 北米視察を終えてパートII
根室 JA酪農研修講座
- 13 ——— 農協の財務状況(上期)
- 14~15 — 乳牛改良同志会乳牛消流府県研修
- 16~17 — ヨーロッパ旅行に参加して
三友由美子さん
- 18 ——— 流通開発、札幌・名古屋へ催事出店
- 19 ——— 理事会の経過
- 20 ——— 〈暮らしの知恵袋〉
“継続は力”家計簿を生活に生かそう
- 21 ——— 〈シリーズ〉
ミルクのお皿
- 22~23 — 今月のフォトアルバム

あす 未来を 担う若者

豊岡 佐藤 久見 さん(33歳)



今年は経営内容を再点検して行きたいと話す久見さん

「今年は牛の体調も良いし、乳量増を期待していたのに生産調整とは頭が痛いな」と、くやしい表情をかくしきれない佐藤久見さん。二三年前まで繁殖関係がおもわしくなく、乳量も伸び悩んでいたそうので、やっと牛もベストコンディションに戻ったところだという。

コストを考えた経営効率

久見さんは、父・久雄さん、母トシエさんの長男(二人兄弟、弟、妹)として生まれ、豊岡小学校、中標津中学校、中標津農業高校へと通った。自分は長男だからという事から、家業である酪農を継ぐことは、中学生の頃から思っていたという。

高校を卒業する頃、先生には、「一二年社会に出て勉強してみないか」と勧められたそうであるが、ちょうど家では規模拡大に向け牛も増頭、労働力的な問題もあり、卒業と同時に家業に就くことになった。しかし、酪農の勉強はまだ不十分と考え、根室支庁の農

自分で
100%管理できる
牛群づくり



業学園で二年間学ぶ。学園では、経営の要である農業簿記を中心に勉強したというが、現状ではなかなか生かしきっていないようである。しかし、学園で知り会えた友だちは、自分にとって大きな利益に繋がったという。合宿研修の時には友だちと良く酒を飲み、経営や牛、農業情勢など色々な情報交換が出来た。また、その友だちとは今でも交流が続いているそうです。

久見さんは牛の改良にも積極的に勉強した。地域のホルスタインクラブ、乳牛改良同志会に入会し乳牛共進会や管内、管外の農家視察にも進んで参加。また、乳牛消

流のためにと、家畜市場の牛引きも八年間やって来たそうです。この間、自分の基礎牛にと、かなりの高い牛も導入したが「結局は自分の家で育てた牛が一番飼いやすく、能力も発揮してくれるな」と、過去を振り返る。

今年は経産牛も五十八頭、総頭数で約百十頭に増え、牛乳も四百以上搾れそうな状況だというが、生産調整ではしかたがないと悔む。「こんな時だからこそ、自分の経営内容を再点検する良い機会かもしれない。牛の頭数だけ沢山いれば何とかなる時代でもないし、自分で一〇〇%管理出来る牛群作りと、コストを考えた経営効率が今後の課題」と話す久見さんです。

農協法公布記念日にあたり

今こそ協同の力を

北海道農業協同組合中央会会長 三澤 政雄



十一月十九日は、第四十六回農業協同組合法公布記念日であります。

この法律は、昭和二十二年に農村の民主化を目標に制定され、今日まで農業・農協の発展と地域社会・経済の向上に果たしてきた役割は、極めて大きなものがあります。

農協法の公布当時は、国民食料の確保が最重要課題であり、農協を基軸とした農業の振興が重要視された時代でありました。

そのような時代環境のもとで、農協が農業の近代化を通じ、食料の確保と同時に、組合員の社会的・経済的地位の向上に大きな役割を果たしてまいりました。

この間、農業・農協を取り巻く

情勢は厳しきの連続でありましたから、それらを打開しつつ、今日の近代的農業を築きあげたのは、

農協運動理念を基調とした相互扶助の精神と、強い団結によって培われた「協同の力」であったと確信する次第であります。

今年、北海道農業が戦後最悪の冷災害をこむり、米をはじめ各作物の被害が極めて甚大な中で、農家所得の大幅な減収が余儀なくされており、目下、国に対し、できる限りの対策を早急に講ずるよう、強く要望しているところであります。

この冷災害は、消費者にも主食である米の不足という大きな不安を与えておりますが、このことは、政府米の備蓄不足によるものであ

り、国民食料の安定供給という食糧管理法の根幹を逸脱したところに、最大の原因があるといわざるをえません。また政府は、米の緊急輸入の措置を発表しましたが、このことは輸入自由化とは全く性格を異にするものであり、今後の

ガット農業交渉においても例外なき関税化を断固拒否する従来の方針を堅持してまいります。

一方、昨年農林水産省は「新しい食料・農業・農村政策の方向（新政策）」プランを策定、公表しました。その政策手法は、「物」や「土地」に主眼をおいた従来の方法から、今後は「人」に着目した手法をとるというものであり、主業農家を中心とする北海道としては、この新政策の具体化と基本政策の

確立を強く求めるものであり、政策確立に我々JAグループとしては最善を期してまいります。意義ある農協法公布記念日にあたり、協同の理念をあらためて考へ、語り合い英知を結集し、魅力ある地域社会と活力ある農業をめざして、一層躍進されますようご期待申し上げます。



今年は数十年振りの冷害でした。特に米作は大きな影響を受け緊急輸入をすることになりました。この冷害を契機に農産物自由化が一層強調され、自由化が不可避であるかの様に国民に受け取られないかと大きな危惧をいただきます。

従来はガットとの関連のみでしたが、今年は食糧確保という名分が新たに加わり、自由化論議に拍車をかけています。この様な流れの中で、農畜産物自由化阻止運動が管内（二千五百五十人）、全道（七千人）、全国（一万人）と行なわれます。組合員はもとより、農協職員、地域住民のご理解と積極的な行動をお願い致します。生産調整、個体の低落、自由化と酪農を取り巻く状況は、経営を左右する様に見える要素が増えています。しかし、この様な外的な変化を考慮して対応することも大事ですが、振り回されないことがもつと大切です。何事にも動ぜず冷静に判断して対処して下さい。何よりも農家自身の心の揺れ動きの方が心配です。農家の心の揺れが経営を動揺させて、必要以上の投資と経費を

かけてしまうのです。自由化論議の中で、必ず国際競争力というところがいわれます。そしてコスト削減ということになります。我々農民は国際競争力という高邁な大義のためにではなく、もつと単純に自分の経営のために経費を低減さ

●今月のたより……

組合長日誌

代表理事組合長

三友 盛行



せることに努めたいと思います。今まではコスト低減のために規模拡大、生産増大を行なってきました。組合員の大方では外的な生産増は一段落した様で、これからは生産調整を契機として、内的な充実の時期かと思えます。この不況

の中で企業は人員整理、資産の売却、減産などそれぞれの方策をとっています。酪農においても生産体制の立て直しが必至です。乳牛は生産の源動力ですが、多過ぎては能力を十分に發揮できずに、むしろ経営のマイナス作用を起こすこともあります。牛肉が、自由化の中で低落して国際価格化しました。妊娠牛も肉値と連動して国際価格に定着しそうです。今の価格では、生産費さえ賄うことが出来ません。その中で育成は附加価値の高い個体は別として、自家更新を基本とした育成比率が大半であり、それぞれの農家の適正頭数が今後の課題です。従来、規模の拡大が前向きであり、現状維持、縮小は後向きと思ひ込んできましたが、自農場に合った適正化の実行の方が、はるかに勇氣のいることとであり、より強い前向きな姿勢と判断が求められます。

個体の消流とフーズ製品の販路獲得のために兵庫、岡山に行ってきました。価格の低落の中で、せめて組合員の個体の消流がスムーズに行なわれることを第一と願っています。岡山と府県の酪農の現場を案内していただきましたが、総体的な感じでは、むしろ根釧の酪農より健全だと思いました。長期間の舎飼いのため足腰に無理が見られますが、思ったより過肥がなく、全体として良好でした。また、フンの尿の処理もビニールハウス方式が確立されて、販売物となっており、地域複合農業の強さを感じました。国際化、自由化という以前に、少なくとも日本において一番健全な酪農を成立させることが、根釧における早急な対策だろうと思ひます。そのために府県の酪農の健全さと強さを、十分に念頭におく必要があります。



営農計画の作成に向けて

ほ場作業もほぼ終わり、ほっと息をついた所ですが、年末も近づき、明年の営農計画に頭を悩ます時期となりつつあります。毎年の営農計画は、我が家の経営、生活目標に向けての一年一年のステップアップのための具体的戦略を練る場でもあります。

生乳の計画生産が継続される中、短期的・長期的な観点からの綿密な計画が求められます。

一、過去の流れを捕える

経営、中でも酪農経営は常に流れています。一年一年、一日一日の積み重ねが将来の大きな目標達成の糧となり、現在に至った過去の流れを適格に捕える事から計画樹立は始まります。

現在までの経営行為がどう生産・所得に結び付いているか、結び付

いていない場合はどこに阻害要因があるのかなど、過去の経営成果を拾い上げながら、もう一度我が家の経営を見詰め直す必要があります。過去のつまずきを繰り返すのか、良い経験として糧とするのかでは雲泥の差が生じる結果となります。

二、経営内ロスの低減

所得は収入と支出の差額であり、所得拡大の方法として図一の四

つの基本パターンで整理する事ができます。しかし、実際の経営の上では四つのパターンが単独で実施される場合は少なく、総合的にいくつかのパターンが実施される事により、より大きな所得として現われてきます。

計画生産、生産量(収入)が決められた中で所得を高めるためには、パターン①・②、費用をいかに効率よく投入するか、または低減するかにかかっています。経営内のロスの多くは生産要素(土地)粗飼料・乳牛など)の間に人が介在する所で発生しており、そのロスをいかに低減するかが「技術」となります。(図一)ロス無しとす細かな工夫、習慣、経営姿勢の積み上げが、やがて大きな所得の拡大へとつながる結果となります。

三、具体的目標値の設定と戦略の決定

具体的目標値を明確にする事は、計画的な実践を促すだけでなく、その目標達成のための根拠・改善項目を認識するためにも重要です。一頭当り乳量の向上と言っても、



軽油取引税改正のお知らせ

軽油取引税はバス、トラック、乗用車などの燃料である軽油の購入に対して課税される道税です。地方税法の改正により、軽油取引税の税率が十二月一日から次のとおり変わります。

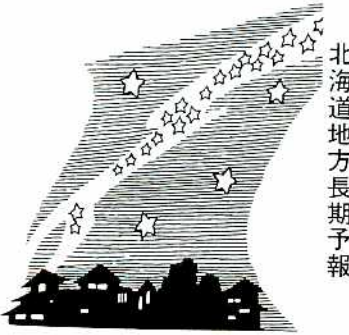
お問い合わせがございましたら根室支庁地方部税務課までご連絡ください。

☎(01532)3-6131

区分	率	
	改正後 (平成5年 12月1日から)	現行 (平成5年 11月30日まで)
1キロリットル当り	32,100円	24,300円

3カ月予報

日本気象協会北海道支部



北海道地方長期予報

気象概況

この期間の前半は、冬型の気圧配置となり、寒い日がありますが、後半は天気が周期的に変わり、暖かい日が多いでしょう。この期間の降雪量は平年並みの見込みです。根雪（長期積雪）の初日は平年並みでしょう。

十一月

十一月
天気は周期的に変わりますが、冬型の気圧配置となつて、寒い日があるでしょう。
気温は平年並み、降水量は平年並みです。

十二月

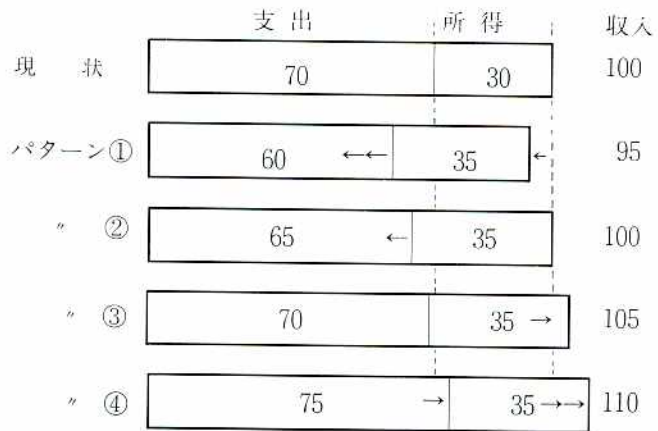
十二月
冬型の気圧配置になりますが、長続きせず、天気は周期的に変わります。

十一月
気温は平年並み、降水量は平年

十二月
冬型の気圧配置は長続きせず、暖かい日が多いでしょう。日本海側の降雪量は少ない見込みです。
気温は高い、降水量は日本海側は少ないが、そのほかの地方は平年並み。

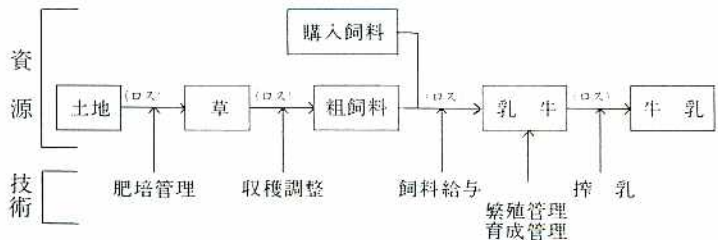
粗飼料・繁殖・育成などは過去の成果に基づくものであり、飼料給与は今後の改善項目となります。現在の状態を十分把握した中で計画作成でなければ、大きな狂いを生む結果ともなりかねません。目標が設定されたら、次は達成のための戦略と実践のための費用の配分です。戦略の決定のためには数多くの改善案が必要であり、どの項目が重要であり、早急な改善を要するかの見極めも大切となります。同様に、費用の配分についても、各々の費用の持つ特性(固定費・変動費・直接費・間接費など)を十分に考慮した中で検討が重要となります。

図-1 所得向上のパターン



	支 出	収 入	具体的な手法例
①	大巾な減	僅かな減	●規模型から単位生産性型経営への移行
②	僅かな減	現状維持	●直接生産に結び付かないムダな費用の削減
③	現状維持	僅かな増	●技術改善、費用の適正投入による生産の向上
④	増 加	上回る増加	●費用の積極的投下による生産の拡大

図-2 資源と技術の関わり(酪農経営)



わが家の人気味

パパのアイス大好き



北進地区 片岡 一志・なみ子 さんご夫妻
次男 丞くん(2歳)、長女 舞ちゃん(1歳)

「お姉ちゃん人工にきたの？」と農協の車で来た私を見て、玄関に飛び出してきた丞くん(二歳)と、妹の舞ちゃん(一歳)。家を訪ねてくるお客さんが大好きで、家の前に車が来ると二人はワクワク。ダッシュで玄関へ行きお出迎えします。

一番上のお兄ちゃん、俊くんが保育園に行っている間は、二人で

仲良く遊んでいます。ケンカに発展すると、丞くんは舞ちゃんに負けちゃうそう。それもそのはず、ただいま舞ちゃんは食べ盛り。朝「マンマ」と言って起きるほどごはん大好き。「嫌いなものでも、口に入ると食べちゃう



のよ」とお母さんも笑います。そんな舞ちゃんの食欲パワーに、丞くんもちよつとおされ気味？でもお兄ちゃんの好きなものは、好きというから、やつぱりお兄ちゃん子の舞ちゃんです。

今二人が夢中なのはトラクターのオモチャ。お父さんにせがんで、本物のトラクターに乗せてもらっ

でも寝てしまっカワイイ丞くん。まだトラクターは、オモチャの方が楽しい時期なんです。十月に、家族みんなでグリュック王国へ行ってきたそうですが、なんてたって遊びがりの三人。お父さん、お母さんが大変だったことは言うまでもなさそうですね。お父さんがつくるベエーベエーアイス(フイックのアイスクリーム)が大好きな二人。あつたかい愛情がはいった、冷たいアイスクリームを食べて、たくさん大きくなってね。



秋の一夜を道東の 味覚で楽しむ

去る十月二十二日(金)午後四時三十分からホクレン家畜市場に於いて、会員及び父母そして町に住む仲間達が約五十人集まり、秋の収穫祭を開催しました。

今年、あいにくの悪天候で例年よりひとまわり小さかったが、町に住む仲間達も育ててくれたので、沢山のかぼちゃが集まりました。かぼちゃと共に集合した会員達は、始めにもだんご作り挑戦、それぞれビニール袋に入れた「あつあつ」のいもをつぶし



見事コンテスト1位の広瀬さん

秋の収穫祭開催される 中標津ジュニアホルスタインクラブ



今年も大成功ハライ

て作られただんごは、おしるこなどにして皆さんで味わいました。その後、コンテストを行ない、集まったかぼちゃをくり抜いたり楽しいアトラクションなどを行ない、父母と共に鍋を囲み、秋の一夜を道東の味覚で楽しみました。

おぼけかぼちゃ重さコンテスト

結果

- 一位 広瀬 紘治 三十六・二kg
- 二位 太田 寛 三十四・二kg
- 三位 藤原 雅代 三十三・八kg
- 四位 佐々木 恵 二十三・二kg
- 五位 広瀬 寿樹 二十一・八kg

なお、かぼちゃは寿宴さんで展示されております。

伯爵&缶バター 開陽台キャンペーン

農協青年部では、じゃがいも伯爵と缶バターのセット販売キャンペーンを開陽台で実施しました。

このキャンペーンは、今まで物産展などで伯爵や乳製品を売り込んで来たが、多数の部員が参加出来、消費者との意見交換ができる地元での

継続事業に向け成果を 期待

農協青年部

PRを見直したことで、冷夏の影響や生乳生産のだぶつきによるバター在庫を、少しでも消費拡大に



なれない仕事に、説明と大変です

続けようと企画したものの、また、広大な台地をイメージしたポスターも新たに作成し取り組みました。開陽台でのキャンペーン(十月六日(十三日)では、六十二セットの注文を受けました。その他、養老牛温泉や空港、交通センターなどにもポスター、パンフレットを置いてもらい、現在では百セット以上の注文をいただいています。セットの注文、問い合わせは農協青年部事務局TEL2-3275へ。セット内容、二百二十五g入り雪印缶バター二缶と伯爵いも九kg箱詰めMLサイズ、送料別で一セット二千二百円。



テントには旅行客がポツポツ集まってくれました



アメリカらしい一般的な住宅、すみずみまで行き通った手入れ

北米視察を
終えて

パートII

洗練された経営感覚

国民性が表われる 美しい環境整備

長 潤 豊
中 村 正 哉



住宅の周りには手造りのイスなどがなげなく置かれている

根室地区JA酪農研修講座

前回に引き続き、酪農研修講座北米視察の報告を致したいと思います。初めに前回の続きで印象に残った点について報告を致します。

第五点目(前回の続きで)ー経営感覚について

〈利益追求〉この点について、つねに頭において経営している。それは、酪農者が出ている中、自分は酪農という産業で他の産業に負けないでやる、という強い信念がらきている。資材費などは確かに安い、乳価も三十円前後/㍉と安い。そんな中で我々が視察した農場の多くは、規模拡大という方向に向かっていった。ただし、ここで驚かされたのはアメリカ人というと粗放(簡単にいうと大ざっぱ)というイメージがあるが、規模が

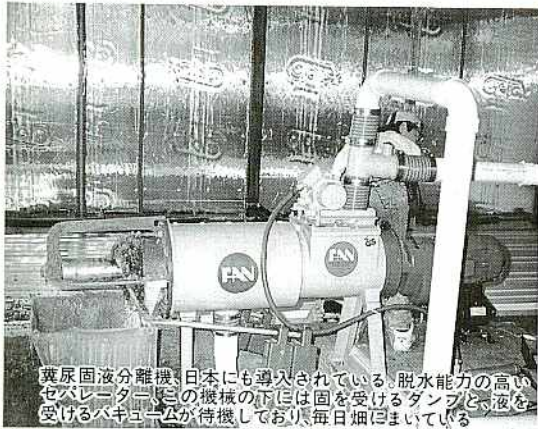
大きく、頭数が多くても非常に細かい点に気を配っていたという点である。例

えば発情発見においては飼料給与した際、後ろから一頭一頭チェックする専属の人をおいたり、哺育においてはハッチを使い、排水性を考え玉砂利を使用したり、まだまだ挙げればキリがないほど利益を上げるポイントに細かい考(配)慮がなされていた。

アメリカにおいて酪農家は、非常に高い意識レベルで経営しているという印象を受けた。これは後で紹介するプロ・デイリーというプログラムが、大学から普及されているという点も一つの要因であると思う。

第六点目 環境(様々な)について

環境は農家、また、住民にとって国民性とも言うべくほど整備されており、生物・物を大切に、また、それをそれぞれ隣り同志で索制し合い、生活の中の一作業としてではなく、一つの趣味としてみごとに楽しく取り入れ、形を崩す事なく、自分の領域をさわやかに主張している。この事は前回の報告にもあった乳牛管理技術の基礎として、何気なく取り入れられ巨大化した(超迂回総合科学技術産業・by村上普及員)酪農を、厳しい経営環境下で他産業と競争しつつ成り

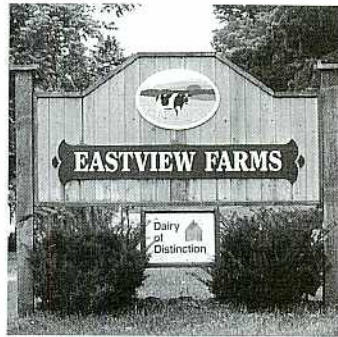


糞尿固液分離機、日本にも導入されている。脱水能力の高いセパレータ。この機械の下には固を受けタンクと液を受けパキュームが待機しており毎日畑にまいている

立たせている。また、景観はまさしくアメリカであり表面的ではなく住宅、牛舎などのスミズミにまで手入れが行き通っており、我々の感じる事は、「いつこの様に整備する暇があるのか!？」というほどである。(写真参考)

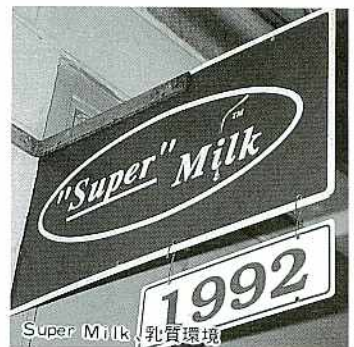
糞尿処理についても各州によって取り決めがある様ですが、例として糞尿を溜めるラグーンは地下水脈のある所には作れないとか。糞尿のうち固の部分は自分の農場外に出しても良いが、液の部分は自分の農場で処理しなければならぬなど、厳しい規制がひかれ、それにより規模を制限されると言った事もある。この様な背景から、

糞尿処理も有効に利用し処理すると言う観点から、固液分離と言った考え方が普及していった。(写真参考) これらの様々な環境に対する農場の努力を、ただそれぞれに行なっている訳ではなく各州でそれに対して評価し、称号(写真)を与え、環境整備を主張している。



Dairy of Distinction 農場全体の環境整備に対する称号 ぼこらしげに掲げている

乳質環境についても良質乳を出荷するために体細胞、細菌数のカウントもさることながら、個々にバルク乳の乳温を二十四時間モニターするシステムが導入されており、出荷規制の一つとなっている。また、牛乳処理室の状況はクリーン&ドライの他、外部よりの侵入(人、動物、虫など)を必要最小限にシャットアウトしており、これらの農場の努力に対してもSUP



Super Milk 乳質環境 体細胞、細菌数、乳温など全てをクリアした農場に与えられる称号、次の年クリア出来ないと返還しなければならない

ER MILK(写真)と言った称号を与えている。これは、生産者の努力をたたえる事のみならず、一般市民(消費者)が訪れた時、また、通りすがった時に安全な食品としての好感を与えている。

次に、大学においての講義の中で、ここでは主に二つのアメリカの普及活動について報告致したい。それはプロ・デイリーとプロダクション・メデイスンである。

プロデイリーについて(コーネル大学に於いて受講)

〈背景・目的〉

現在の酪農家は最高の技術、施設、遺伝的能力を手にする事は充分可能な状況にあるが、それを使いこなすに充分な人的資源を欠いては、高度に変化する社会環境および他産業との競争に対抗しうる

酪農経営の確立が難しくなる現状にある。そこで科学的データを十分に活用し、更に安価な乳価でも最大利益を上げるために、酪農家が現状を正確に認識し、情報を有機的に組み合わせる経営改善を実行するための手法を目的とし、五年前にスタートした。

このプログラムが他のプログラムと異なる点は、他産業のものと考え方を取り入れており、第一にマネージメント機能の開発・育成(人材の育成)、第二に技術指導からなっている。

〈概念〉

○マネージメントの三つの重点

●リーダーシップと組織づくり(目標達成のための人員の役割分担)

●目標をしっかりと持ち将来に向けての組織全体としての取り組み。

●それを監督する能力(構成員の組み合わせ・配置)

●人員が最もよく機能するための人的資源のマネージメント及びトレーニング

●日々の運営のためのマネージメント(情報の提供、トレー

ニング)

…日常の運営の問題がいかによく解決機能するか。

○マネージャーの機能・役割

● PLANNING (立案・計画)

…経営資源の配分を目的とし、長期的目標、戦略的目標を設定する。

● ORGANIZING (組織化)

…命令系統・責任分担・報告義務の確認。

● STAFFING (人員・人材)
…人員の配置とトレーニング・人材の評価。

● DIRECTING (監督)
…農場の分化・マネージャー自身の目的・人員に対する動機づけ及びリーダーシップの發揮。

● CONTROLLING (統制)

…計画に対する確認と実際の比較・記録の保持。

ちなみにプロ・デリーのプロ (PRO) は PRODUCTIVITY (生産性)、PROFESSIONAL (専門化)、PROFI

TABILITY (収益性) を示している。

この大学のプログラムは、一般酪農家に参加を呼びかけているも



ワシントン大学での講義。現在、各州の大学と連携を取りながら技術普及をしているプロ・デリー

のであり、このプログラムの効果は確実に現われている。

プロダクション・メディスンについて (カリフォルニア大学に於いて受講)。

プロダクション、メディスンとは獣医師を中心とした酪農に対しての新しい考え方 (方向) であり、今までの獣医は治療のみで満足していたが、牛群全体の中の一部の

中の治療のために、時間と金を費やすのは効率が悪くということ、酪農家が収益性を最大にするために何をすべきか、例えば繁殖・乳腺の健康・栄養・育成・施設・機械、人間の管理 (トレーニング)、財務 (体質) などの面をトータル的に考え、予防対策を大前提とした指導を行なうものであり、酪農家がそれぞれの目標をより効率良く達成するためのお手伝いをするという考え方である。



ウイスクンソン大学 アニマルサイエンス研究室前で

この様にアメリカでは酪農を取りまく関係機関は非常に活発であった。とりわけ、大学が現場 (酪農家) と密接な関係にあるのには感心させられた。大学 (教授など) が、

農機具、資材など商品を科学的に分析し、良い物は良い、悪い物は悪いとはっきり明言する (販売者に対しても、購買者に対しても)、活動もしているという素晴らしい姿勢である。

十七日間という長いアメリカ研修であり、まだまだ報告する事はありません。各州の特徴も報告する予定でした。しかし、詳細を報告するとキリがないので、写真もたくさん撮ってきましたし、参加者全員で報告書も作成しますので、こちらの方もご覧頂ければと思います。最後になりましたが、農業の益々の発展を我々共々の手で築きあげるといふ信念を持つという事で、海外研修の報告とさせていただきます。



カリフォルニア州の牛乳店。主流は、アパルトミルク。様々な種類の牛乳がある。

農協の

財務状況

九月末における農協の財務状況についてお知らせします。

◎貸付金 昨年同期に比べ、全体で四億二百万円の増加になっております。増加の主な部分は、受託

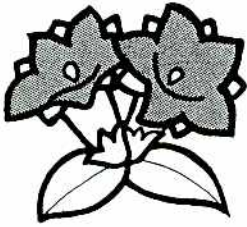
資金で一億三千六百万円、長期資金で二億六千六百万円の増加です。

◎クミカン 上期の状況は個体価格の下落などがあったものの、販売代金が昨年同期を若干上回り、農業支出は約五千八百万円減少で推移し、借方残、貸方残ともに大幅に好転し、貸越残については前年より一億八千五百万円減少しております。

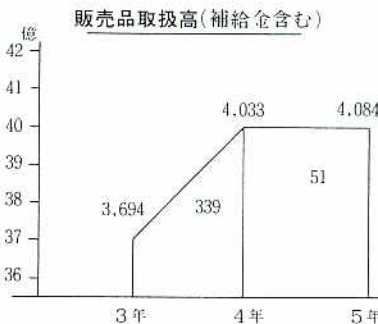
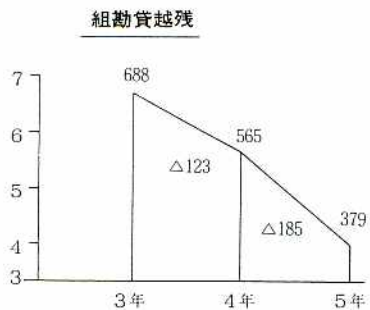
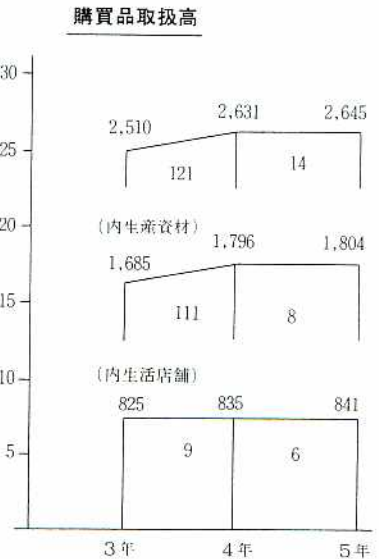
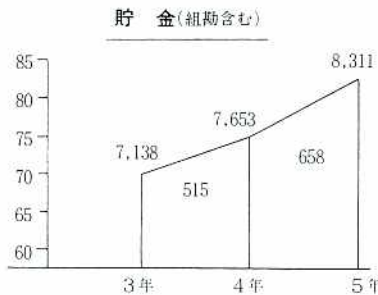
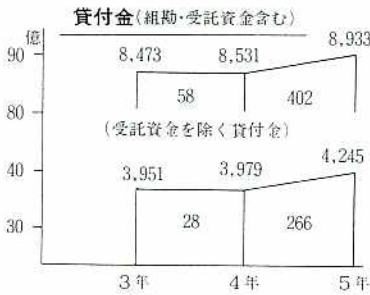
◎貯金 昨年に引続き順調に推移しております。本年は組勧の預り残の伸びなどもあり、目標達成にむけて努力をしてまいりますので、今後とも組合員各位のご協力をお願い致します。

◎販売事業 前年同期に比べ若干の伸びで推移しているものの、下期の生乳生産調整個体価格の暴落により、下期の業績に影響が大きいものと懸念されます。

◎購買事業 生産資材、生活店舗の上期取扱高は順調に推移しているが、やや伸び悩みの状況にあります。購買事業については、景気低迷のなか下期の事業展開が楽観出来ない情勢にあり、今後とも組合員皆様のご理解とご協力をお願いし、財務状況の説明の報告といたします。



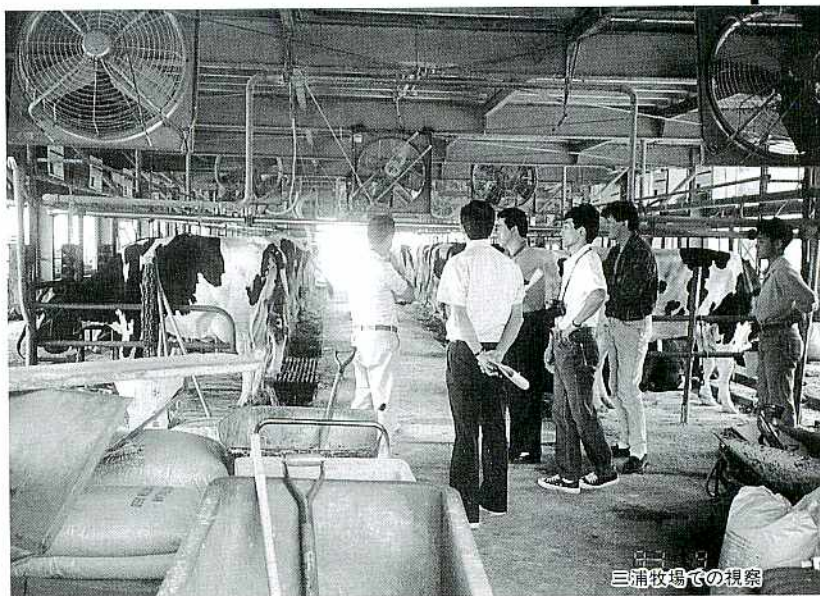
平成5年度 9月末事業概況 単位百万円



乳牛改良同志会
乳牛消流
府県研修に
参加して

信頼に応える 責任を感じる

北 進
弾正原 正



九月二十七日より三十日にかけて鳥取県、大山乳業農業協同組合と兵庫県・洲本市酪農農業協同組合を視察研修し交流を深めることができました。

大山乳業農業協同組合とは今回初めての交流であったが、組合長、参事をはじめ温かい歓迎を受けた。大山乳業は鳥取県下にまた

がる酪農専門農協で、組合員戸数四百八十戸、乳牛一万二千頭、総生産乳量五万トンという規模で中国地方では岡山県と並ぶ生乳の大生産地となっている。生産された牛乳は全て大山乳業の牛乳加工場で処理され、市乳、粉乳、チーズ、ヨーグルト、アイスクリームに加工されている。また、その他にもケーキやシュークリームなどの菓子類の製造も行なっており、販売先としては山口、広島、大阪、神戸方面が主で営業所も各地で活動している。大山乳業でも今年の冷夏による市乳などの販売量減少と生産調整の実施は酪農家の経済を圧迫しており、乳牛の導入については組合長命令でストップしているのが現状である。

大山の酪農家については、平均飼養頭数三十頭、土地面積平均3haで粗飼料の自給率も五〇%前後と高い。個体乳量は平均六千七百kgとあまり高くはないが、乳価は1kg当り百五十円と高いため酪農家の生産意欲も高く、生産規模の拡大を目指している酪農家も見られた。乳牛改良同志会の活動も盛んで、中国共進会へも積極的に参加

している。同志会長からは、「北海道から乳牛を導入するならばペグリーの良い牛を導入したい」という意向もあり、今後、中標津町農協との交流が盛んになる事を期待し鳥取を後にした。

洲本市酪農農業協同組合は乳牛三千六百五十頭、搾乳牛二千六百頭で本年度一万五千トンの生乳を生産、個体乳量七千五百kg、組合員戸数百二十戸で専業は六十戸、乳脂率三・八〜四%、無脂固形分八・七%と高く、本州では最も乳質が良い。生産された牛乳は、農協の加工場で処理され、市乳として神戸、大阪のダイエー、生協へ出荷されている。土地が狭く飼料は九〇%購入、特に乾牧草が高い。乳牛の購入については、肉値が安い

ため経済的に苦しいのが実状だが、洲本では生産調整はなく、乳価も百円以上と高く経営も安定している事から酪農もなく、後継者不足、嫁不足もない。

追跡調査については、十五戸の酪農家、三十五頭の消流牛について実施した。酪農家は、がけの中腹や密集した住宅地に点在し、環境問題が常に酪農家の悩みとなって

当幌 福村 稔

いる。消流牛については、産乳も順調で評判も良く、中標津から来たというだけで、どこの家でも親しみを持って迎えてくれた。また、体型的にもかなり優良なものが見られ、牛も大切に飼われていた。洲本市酪農協と当農協との取引は十五年以上も続いており、互いの信頼関係を確認し合う交流となつた感もあるが、優良牛は中標津から導入する」という方針が既に確立されていて、参加者一同、安心すると共に、その信頼に相應る責任を感じて帰途についた。



池(農場)で飼育
かこ 池(農場)で飼育
土井上信一 クリーンバレー シェーホリ

私達は十月二十七〜三十日まで鳥取大山乳業と淡路、洲本酪農協の二カ所を視察して来ました。私自身十年ぶりの視察と言う事で、洲本では前に来た時とはちがう場所へ来たぐらい、開発リゾート化が進んでいました。大山は初めて行ったのですが、乳牛の購買は今年中は休止と言う事でしたが、これから先の購買には充分、期待が持てると思います。

一方、洲本は十数年来、中標津から牛を導入している地区ですが、今回は三十頭以上の牛を見て来ましたが、一応にすべてがよい状態ではないかという風に見て来ました。また、洲本は十一月中旬より購買に入って来ますので、組合員の方々が一頭でも多くの牛を見せて、これからも長く付き合っていく事が大事ではないかと思えます。また、今回支部からの参加者が少なく、人数が四人と少なかったのは残念でした。同志会としての大事な事業の一つですから、会員の積極的な参加(特に若い後継者)をお願いします。

武佐 佐藤 勲

今回視察してきた酪農家は、どこも育成を中標津とは比べられないような小さな場所で行っていました。そのためか成牛を見ると、自家産の牛と中標津から行った牛とは、足、尻、乳房などの違いがはっきりと区別できました。やはり育成には広い場所での適度な運動と、十分な粗飼料が必要なんだとあらためて思いました。だから、この広大な草地で育つた中標津の牛を必要としているのだと思えました。これから先も、府県から中標津の牛に対する需要はなくなりなれないと思うので、ここまで築き上げて来た「中標津の牛」に対するイメージをこわさないように、これからの改良に力を入れて行きたいと思えます。今回の視察では、府県の酪農の現状がわかり、府県の酪農家、関係機関の方々と交流できたことはもちろんですが、一緒に中標津から行った農協の方々、同志会々員の方々から学んだ事も多くありました。この様な視察に参加できた事を大変うれしく思います。

当幌 遠藤 弘一

同志会の視察に行き、大山乳業農協、洲本市酪農協を見て来ました。二農協とも牛乳、乳製品の製造、販売を行なっています。また、北海道から行っている牛も頑張っていました。州本ではミルクシンプラー、ミキシングマシンと酪農も大型化して来ていました。

今回の視察で得た事を今後の乳牛改良、消流に生かして行きたいと思えます。

今回の視察で得た事を今後の乳牛改良、消流に生かして行きたいと思えます。



大山乳業前にて

ヨーロッパ旅行 に参加して

ヨーロッパに学ぶ「節度」

九月の末から十月にかけて、中標津町の「欧州視察研修旅行」に参加し、イギリス、スイス、ドイツ、フランスの四ヶ国を旅して来ました。

三友由美子



ファームステイ先でパン焼きを見せてもらった

旅行計画は多岐に渡っており

- 老人福祉（老人ホーム、デイケア施設訪問）の視察研修
- 観光地（環境保護と観光事業、観光局訪問）での研修
- 都市計画、環境問題、都市空洞化に対する取り組み
- 農業視察研修（ファームステイの体験）

これ等のことを中心に、観光とショッピングもあって、大変楽しい旅でした。

最も興味深く、また楽しみにしていたドイツでのファームステイは、九十頭搾乳のフリーストール方式の農場でした。ゲストハウスが三棟もある大農場でしたが、ご家族、地域の人々と心温まる交流を体験することができ、忘れられない思い出も多く持つことができました。



参加者全員で

ました。スペースの関係で、ここでは特に印象深かった、フライブルグ市での環境セミナーの事を少し書いてみます。

スイス、フランスとの国境に近いフライブルグ市は、遠大な環境

政策の推進に取り組んで成果をあげ、ドイツ連邦のモデル地区にもなっています。交通対策、ゴミ処理、エネルギー対策、森林対策などがオリジナルな方法によって、環境保護という立場を優先しながら見事に解決され、快適な生活空間を産み出しています。

市自体が環境都市として宣言し、それを受けて多くの研究機関が活動しています。そんな中で、市民の感心と意欲も高まって行きます。感心するのは、そうして起きた市民の様々の思いや考えが公民両機関に反映され、行政において実現して行くと言う事です。

それぞれの事情や利害がからみ、それが問題意識のずれとなつて、行政もまた態度を決めかねると言う日本との大きな違いを見、大変な驚きでもありました。

セミナーの中で、唯一未解決の問題についても話されました。それは農業に伝る環境汚染（地下水、河川）でした。化学肥料や農薬もあります、近年畜産による汚染が問題になっているとのことです。以前は小規模、多角経営農業の中

で十分なサイクルを保つことができ、糞尿、残渣物が熟成され、土地に返されていきました。土地と家畜とのバランスがくずれ、農業形態が変わるにつれて、そのサイクルを保つことができず、それが汚染に繋つていくとの事でした。これだけは、農業政策との折り合いがつかない



ドイツ フライブルンの古い建物



近くの酪農家の方と

めに、未解決とのことでした。

私達は「ヨーロッパに学ぶ」と言いますが、これは実は大変な事だと思われました。旅の中で私は人々の中に「節度」を感じました。彼らはそ

の節度に依って、人間にとつてかけがえのないものが何であるかを知るのでしよう。それ故に彼らには「戻る」とか「止める」と言うことができるのです。唯一残された農業にかかわる環境問題も、彼らには日本よりずっと早く、国民的な理解と協力の中で解決してしまふだろうと思われました。

次年につながる販路に期待

札幌、名古屋へ

流通開発
催事出店

伯爵の知名度は
年々向上



中標津のじやが
いも伯爵及び(株)な
かしべつフーズ農
産加工品の流通開
発を目的に、札幌
丸井今井(十月六
日～十二日)札幌
五番館西武、名古
屋三越栄本店(十
月十三日～十八日)
にそれぞれ催事出
店いたしました。
今年も消費経済
の低迷するなかで
不安を背負っての出店でしたが、
札幌では出店した全商品をほぼ完
売、名古屋三越には初の出店でし

たが、名前の知られていない伯爵
を、約三百八十ケース販売する事
が出来ました。今回の出店で特に



好評だったのは、なかしべつフーズのイモもちで、「ねばりもあり味も良好」と、消費者から高い評価をいただきました。
また、伯爵も札幌では少しづつではありますが知名度が上がり、指名客も増えて来た様に思われます。
今後の販路拡大に期待したいものです。

厳しい情勢の中、
目標額を達成

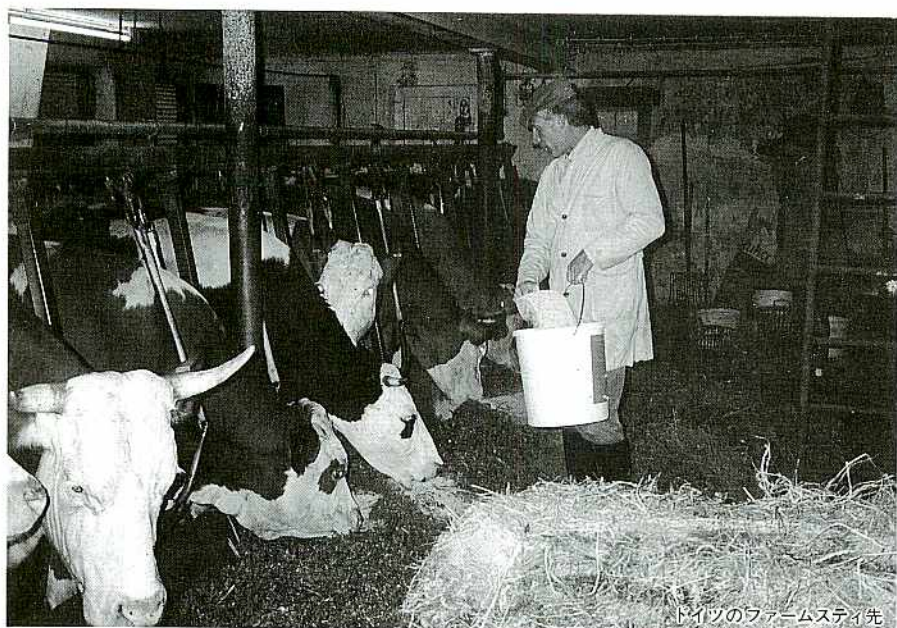
一日皆貯金終わる

毎年恒例におこなわれております一日皆貯金は、十月十四日(二十二日、組合員皆様及び町内各ご家庭を訪問し実施いたしました。

今年も農業情勢、経済状況の厳しい中ではありますが、全体目標一億円に対し、実績で一億二百一十万円と目標を上回る事が出来ました。これも組合員皆様のご協力のたまものと、深く感謝申し上げます。なお、抽選会は近日中に行ないますので、お楽しみにお待ちしております。



今回、思ってもいなかった欧州先進地視察研修に参加しました。研修には、釧根地区六町から二十人を出発し、参加者の職業は本当にバラバラで、いろいろ話をききました。2週間で四カ国という、とてもハードなスケジュールだった。(イギリス、スイス、ドイツ、フランス)



ドイツのファームステイ先

欧州先進地視察に参加して — 佐藤 洋之

・農家の生活のんびりと



スイスの山岳地帯に点在する農家

視察の内容は、地球環境、高齢者福祉、農家視察などを中心にいきましました。高齢者福祉に関しては、老人ホームを訪問しました。ヨーロッパと日本の違いとしては、ヨーロッパは個人の気持ちを尊重していて、部屋は一人部屋で、家具などは自分たちで持ちこんでおり、老人ホームに入のお金も、国から九割以上の人が助成を受けていた。老人福祉については、日本よりも進んでいた。

地球環境については、二カ所公式訪問をし、一つ目は、湖の水を吸い上げて、小さな地域にその水をまわし、冷房用として使い、水をもう一度湖に戻すというようなことをしていた。すごく単純な施設だったけど、話を聞くと自然を破壊しないで、いろいろ考えてやっ

ていた(スイス)。もう一つの所はドイツのフレイブルクという所で、ゴミとリサイクルの話を書いた。ゴミは日本でもいろいろ問題になっている。ゴミは徹底して分別収集し、町の人もきちんと守っている。また、町のお祭りなどでは、トレーや紙コップなどは禁止していた。

農家視察では、二軒の農家を見た。一軒目はファームステイ先の農家で規模は小さく、牛と豚を飼っていた。ファームステイした地域は、それほど規模は大きくなかった。もう一軒は、その中でも大きい方で、フリーストールをしていた。そこは、経産牛九十頭に育成牛六十頭で、平均乳量七千四百四十kgで、飼料はコーンを主にしてTMRをやっていた。くわしい話を聞きたかったけど、言葉が通じなかった。自給自足できるようなところで、農家生活もとてものんびりしていて、家の周りなどもとてもきれいだっただ。

二週間、長いようで短かった研修でした。いろいろ習慣の違いなどがあったが、また機会があればぜひもう一度行きたいと思えます。



平成5年10月

「最終期限がせまるなかで、 続けられるせめぎ合いのラウンド交渉」

ウルグアイ・ラウンドの最終合意期限とされている本年十二月十五日まで、六十四日しか残されていない十月十四日、アメリカのカンター通商代表とE.C.のブリタン通商担当委員は、農業や繊維の関税引き下げ、映画・ビデオ等の輸入規制問題など、双方が対立する課題について広範囲に協議しましたが、溝はほとんど埋まらず、さらに協議を継続することになりました。

突破口となるか 閣僚会議

主要国間の争点は、農業をふくめ、相当絞り込まれてきたとみられています。最終合意までの期限がせまるなかで、各国間の対立はいっそう激しくなり、ジュネーブの交渉担当者レベルでは前進できない状況におちいつていると伝えられています。

こうした事態を打開していくため、アメリカ・E.C.・日本・カナダの四極通商会議など、閣僚レベルの会合を早急に開催し、妥協を図っていくべきだという考えがE.C.側を中心に出されてきました。しかし、現時点では、この会合で全ての問題が解決するとは考えられず、今後こうした閣僚レベルの交渉が断続的に行われる可能性もあり

ます。

求められる細川 政権の言行一致

主要国間の交渉が今後ひんぱんに行われると予想されているのは、十二月十五日までに、一つの重要な山場があるためなのです。それは十一月十五日です。つまり、農業をふくめ、今後の関税引き下げ計画や外国企業に対する規制緩和などを具体的に記入した保護削減の最終的な国別約束表を、この日までに提出するよう各国政府は求められているのです。

日本政府は、例外なき関税化を認められないとの立場から、昨年三月に米など重要な問題に関わる部分を空欄のまま国別約束表を出しています。また、主要国が提出した約束表もバラバラの内容となっており、これでは、最終合意を達成することができないわけです。

今後、この国別約束表の出直しをめくって、主要国は相当きびしい交渉を展開していくと予想されており、七年以上にわたって行われてきたウルグアイ・ラウンドの貿易交渉は、十一月中旬から十二月中旬にかけ、重大な山場をむかえることになる

みておく必要があります。

こうしたなかで、フランス政府は合意できない分野を除いた部分的な暫定合意を求めているとか、アメリカとE.C.は突如歩み寄るのではないかといった憶測が流れていますが、今後主要国間で展開される一情報合戦一にも注意していかねばなりません。

一方、細川総理は国会での施政方針演説やJ.A.グループの要請団との会見でも米などの農業問題では一従来方針を堅持して交渉にあたる一と、繰り返し明言してきました。戦後最悪の米凶作のなかで、懸命に収穫・集荷に取り組む全国の農業者と、食料



10月13日農業への支援を求めた街頭宣伝

問題に
関心を
高める
多くの
消費者
は、細
川政権
の一言
一行一
一に重
大な関
心を強
めてい
ます。

理事会

の経過

第十回理事会

開催月日 平成五年十月十三日
開催場所 農協中会議室

〈議案〉

- 一、組合員資格の変更について。
 - 二、なかしべつファーズ(株)償還元利金の延納願いについて。
 - 三、金融課パソコンのリース更新契約について。
 - 四、改良課車輛のリース更新契約について。
 - 五、平成六年度営農計画樹立について。
 - 六、各種制度資金の申し込みについて。
 - 七、公社畜産基地建設事業の追加について。
 - 八、平成四年度産共計澱粉の精算について。
 - 九、馬鈴薯選荷所リフトリース契約について。
- 以上、九議案について、原案通り決定しました。

〈協議事項〉

- 一、根室管内農業賞受賞候補者の推薦について。
- 二、組合員勘定取引中間協議の経過について。
- 三、(有)希望農場、畜産活性化総合対策事業の実施について。
- 四、地区別懇談会の開催について。
- 五、自治監査の日程について。

〈報告事項〉

- 一、澱粉工場の操業状況について。
- 二、酪農諸情勢と生乳生産状況について。
- 三、畜産販売取扱状況について。(九月末)
- 四、北電検針・集金業務の廃止について。
- 五、平成六年度の新規採用職員について。



地区別懇談会



第2候館、西館地区の懇談会

見を聞き、今後の組合員対応に生かしたい旨挨拶の中で報告した後、議題に基づき農協事業の概況、生乳計画生産の経過、今後の動向を主とした情勢報告、畑作三品価格の情勢、澱粉工場の操業状況、生産資材の情勢などについてそれぞれ報告いたしました。

また、組合長、参事より乳牛の消流状況、特に府県の状況について細かく報告があり、更に組合長より管内農協の合併問題について経過説明があり、管内一農協構想は白紙撤回の報告がなされました。出席された方々からは、下期の意向調査の結果、個体価格の暴落、バター消費拡大対策、乳牛の消流対策の意見が多く出されていきました。いずれにしても下期の生乳生産調整と、個体価格暴落による経営を取りまく環境悪化に対し、細心の注意を払い、経営にあたる意気込みを感じられる懇談会でありました。懇談会の経過については次回の理事会に報告し、今後の運営に反映されることとなります。建設的なご意見、ご提案ありがとうございました。

毎年恒例となっております地区別懇談会を、十月二十五日より三日間七地区で開催いたしました。今年も春以降の異常気象、特に冷夏の影響が大きく、馬鈴しよの収穫作業が大幅に遅れていることもあって、出席された組合員は七地区で八十四人とどまりました。組合長から新しい執行体制でスタートし上期が経過、その間の経過説明、農協運営の今後のあり方、生乳生産調整が長期化し、更に個体価格の暴落などのなか皆様の意

暮らしの

知恵袋



“継続は力”家計簿
を生活に生かそう

北根室地区農業改良普及所

前回は、家計簿と生活設計につ

いて述べましたが、今回は、年末に向けて、家計簿のまとめ方、決算”について考えていきます。

私たちの生活は、季節の変化、あるいは地域や社会、家庭の諸行事などにより、月ごとに変わりま

● 一覧表で年間の生活をながめてみよう。
一年間の記録のまとめを一覧表にしてみましょう。毎月の集計結果の一覧表を作成し、一年間の合計を各費目ごとに出します。これは収入と支出、貯蓄についておこないます。途中で中断してしまったりで、不十分な月があったとしてもかまいません。一年の集計はできませんが、一覧表に記入してみると、各月ごとの状態が一定でないことがわかります。

せつかくの家計簿もつけっぱなしでは、何の役にも立ちません。苦勞して？ 続けてきた家計簿ですから、これをどう生活に生かすかがうでの見せどころです。そのためには、この一年間の家計の変化を総決算する必要があります。

支出が多かった月には、原因を考え、理由とその経費をまとめてみると、次年度の予算をたてると

きに便利です。

今年初めてつけてみた人は、記録も完全な状態にならないのがふつうです。できるところだけでも書き出してみると、いままで部分的にしか気づかなかったことが、全体のなかでどうなっているの理解できるようになります。気になつていたことよりも、さらにほかの問題があることに気づいたりもします。また、毎月のまとめと一年をまとめた場合とでは、家計の状態に対する見方が変わってくる場合もあります。

● グラフにするとよくわかる！！
毎月の収入や支出を、グラフにしてみました。数字で見るとわかりやすくなります。普及所では、コンピュータによって家計の変化をグラフにし、分析を行なっています。ぜひご利用下さい。

● 決算表で家族で話し合いを！！
決算表ができたら、家族、少なくとも夫婦で、この一年間の家計について満足であったか、問題はなかったか、もし問題があるとすれば今後どのようにしたらよいか

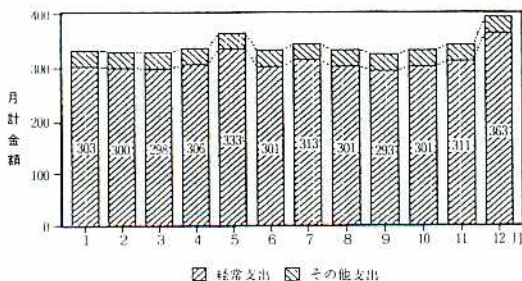
などを話し合うことが大切です。家計簿は記帳している人だけのものではありません。生活の状態を経済的な側面からとらえるための記録なのです。

そして、一年間の集計ができたら検討した結果を活用し、さらに来年の予定、”予算”を立ててみましょう。

家計簿をつけているうちに様々な難関があるかもしれません。いっぺんに完全な記帳はできなくてもあきらめず、年々上達していくことを励みましょう。

”継続は力”です。

月別支出額の推移(本年実績)



グラフにすると、1年間の家計の動きがひと目でわかる！！

婦人部からのホワイトメッセージ



寒い日のあったか雑炊はいかが？

牛乳雑炊二種類

洋風牛乳雑炊

(4人分)

固形スープの素

4個

材料

ごはん

えのきだけ

茶わん4杯

1袋

カップ1杯

8本

各々3カップ

ミックスベジタブル

ポークウインナー

水、牛乳

日もだんだん短かくなり、寒さが日に日に増して来ました。

からだの暖たまる雑炊は、寒い日の食卓には、なによりです。

栄養もたっぷり、老人や病人にも喜ばれるでしょう。

今月は、牛乳雑炊を二種類紹介します。雑炊に入れる具はこの外ねぎ、生しいたけ、しめじ、せりなど適宜に調理してください。

牛乳を使った料理は、コクが出るので、薄味でもおいしく食べられます。塩分は控えめにして調理してください。



和風牛乳雑炊 (4人分)

材料

大根 50g

にんじん 30g

なめこ 100g

みつば 4〜5本

ごはん 茶わん4杯

牛乳 3カップ

だし 1カップ

しょう油 こさじ1/3

塩 こさじ1

こしょう 少々

作り方

①鍋に水を煮立て、スープの素を溶かしこみ、沸とうさせる。

②ミックスベジタブル、半分に切ったウインナー、さつと水洗いたごはんを①に入れる。

③ひと煮たちしたら、根元を切ったエノキタケを入れて、さつと煮て火を止める。

作り方

①大根、にんじんは、それぞれ細長いたんぎくに切り、柔らかくゆでておきます。

②鍋に牛乳、だしを入れて火にかけ、しょうゆ、塩、こしょうを加えて味をととのえ、ひと煮たちさせます。

③ここにご飯、大根、にんじん、なめこを入れ煮立ったら火を止め2〜3cm長さに切ったみつばを散らします。





勝負は売方始めから5分～10分の間、この時は、ねこの手もかりたいほど忙しい

青空朝市が終了 新鮮、安全、安価な野菜を販売

5月21日から毎週金曜日に開催してまいりました中標津町野菜生産組合の青空朝市も、10月1日を最終に今年度事業を無事終了いたしました。

今年は冷夏と日照不足により、野菜の出来が心配されたものの、組合の生産管理技術の向上により品質、品揃えとも問題なく、当初計画通り20回の開催を行なう事が出来ました。

今後は、消費者アンケート調査の集計を分析し、組合全体で検討しながら今年度の反省をもとに、次年度につなげて行くとの事です。



最終の朝市も豊富な品揃え

フ オ ト ア ス ル ド ム



Aコープ開店 23周年 大感謝祭!!

年に一度の大奉仕

Aコープ中標津店では開店23周年を記念して、大感謝祭を10月13日から3日間開催。長年のご愛顧を感謝しての店内大奉仕とあって、店頭には開店の1時間前から長蛇の列が出来るほど。また、ラッキー賞のピックプレゼントやお楽しみ抽選会にも人気集中、パールライスや伯爵いも、新巻鮭などがプレゼントされました。店内は連日大入り満員の大盛況でした。



Aコープ店前には開店を待つ長～い列が

自分の牛は どこだ～

俣落拓北牧野組合で下牧



ひさしぶりに愛牛と対面、畜主の顔もほころぶ

俣落拓北牧野組合では、6月2日に入牧された乳牛約460頭の下牧が、10月25日行なわれました。

朝早く、俣落の共同牧場には畜主全員が集合、広い牧場からパドックに牛を追い込み、自分の牛にモクシを掛け、それぞれトラックに積まれ家路へと向かいました。

約4カ月間入牧された牛は、ひと回りもふた回りも大きくなり、みちがえるほどに、中には自分の牛がわからなくなる一幕も。今年は冷夏にもかかわらず、草不足や、大きな事故もなく無事に終わる事が出来たと組合のみんなは喜んでいました。

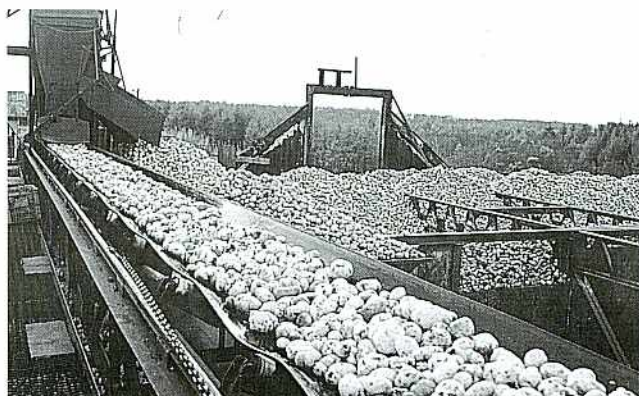


澱粉工場の操業状況 天候にも恵まれ、順調に生産

9月15日から受入が開始されており、ます農協合理化澱粉工場では、操業も終盤に近づき、原料処理、製品生産とフル稼働しております。



製品化された澱粉は次つぎと袋詰めされる



受入されたイモは水洗いされコンベアで運ばれる

今年は、初秋から晴天の日が続き受入れも順調で、10月末で28万4千俵を受入れ、製品も13万8千袋の生産となっており、当初計画（1次申込み数量33万8千俵）を約1割増加しています。

操業もこのまま順調に操業しますと、11月中旬には終了予定となります。後わずかな期間となりますが、生産者皆様のご協力宜しくお願いします。

10月の 組合日誌

- 7日 馬鈴しょ出荷督励
- 12日 第4回営農委員会
- 13日 第10回理事会
- 13日 Aコープ開店23周年大感謝祭
- 14日～15日 1日皆貯金
- 21日 役員協議会
- 22日 管理購買委員会
- 25日 地区別懇談会、第2俣落、西竹
中標津
- 26日～28日 内部審査
- 27日 農協酪対役員会
- 28日 地区別懇談会、当幌、俵橋、武佐
- 29日 地区別懇談会、俣落、開陽

編集後記

秋の天気は変わりやすいと良く言いますが、今年は比較的好天に恵まれ、農作業も順調に行なわれていると思われかもしれませんが、馬鈴しょやてん菜の収穫作業、堆肥散布などいよいよ追いつきですが、くれぐれも事故のないよう気を付けて下さい。

10月の上旬、流通開発の催事出店で札幌に行って来ました。朝から晩まで立ちっぱなしの、慣れない販売作業で足は痛いし、声はかされるし大変な思いでした。しかしそんな中でも、中標津の伯爵を求めて買いに来てくれる人も沢山います。私は覚えていないのですが、札幌のお客さんから〇〇さんと名前を呼ばれ「いもを買いに来ました」と言われた時は、今までの疲れもスッとどこかに飛んで行ったようで、とてもうれしいものでした。この様なお客さんが増える様にと、またファイトがわいて来ます。

半年に1回の金利見直し。半年複利で有利にふる。

JAの変動金利定期貯金

お預け入れ日から6ヵ月ごと(3年間に5回)市場金利の変動によって、金利を見直しさせていただきます。市場金利が上昇傾向にある時は、さらに有利な運用ができます。

ご利用いただける方	個人の方。
お預け入れ金額	100円以上。
お預け入れ期間	3年。自動継続もご利用できます。
お預け入れ利率	金利情勢により決定させていただきます。
お利息の計算方法	有利な半年ごとの複利計算。 お利息は満期日一括受取方式で税金は、お利息支払時に精算される。お客様に有利な計算方法です。
自動融資	総合口座にセットすると、いざという時、約定利率+0.5%で自動融資をご利用いただけます。

寒さを乗り越え頑張れ!

酪農実習生
近藤 利治さん

開陽の山崎隆農場で実習生として頑張っているのは、近藤利治さん二十一歳。今年七月、静岡県から中標津へ実習に来た。近藤さんはコンピュータ学校の三年生で、自分の体力作りとコンピュータストレスの解消のため、学校を休学して来たという。

実習に入ってから1ヵ月になるが、心配していた筋肉痛もなく、毎日絶好調との事。学校ではプログラム作りで二日や三日は寝ない事が何回もあり、身体はぼろぼろですよ」と話す。

「実習先の山崎さんも良くしてくれ、仕事も全然苦なく楽しい毎日を過ごしています」という。



しかし、これから冬を迎えるにあたり多少の不安はあるようですが、実習も十二月までなので一けんめいがんばりたいと話しておりました。